資料３

自動運転バス実証運行事業について（審議）

2026（令和8）年10月19日

０．経緯

通信事業者を中心としたコンソーシアムが総務省実証事業採択
市は「駐停車合意等の関係機関調整、社会(市民)受容」の役割

１．これまでの取組

令和6年度：交差点における歩行者の認知等の技術検証
令和7年度：信号情報との連携、路上駐停車車両の追い越し等の技術検証
小田急バス参画※、社会実装に向けた体制づくり

※交通知見の提供

２．令和8年度の状況

令和８年度は、新たに既設バス停を利用を企画（詳細別途)

３．今後の予定

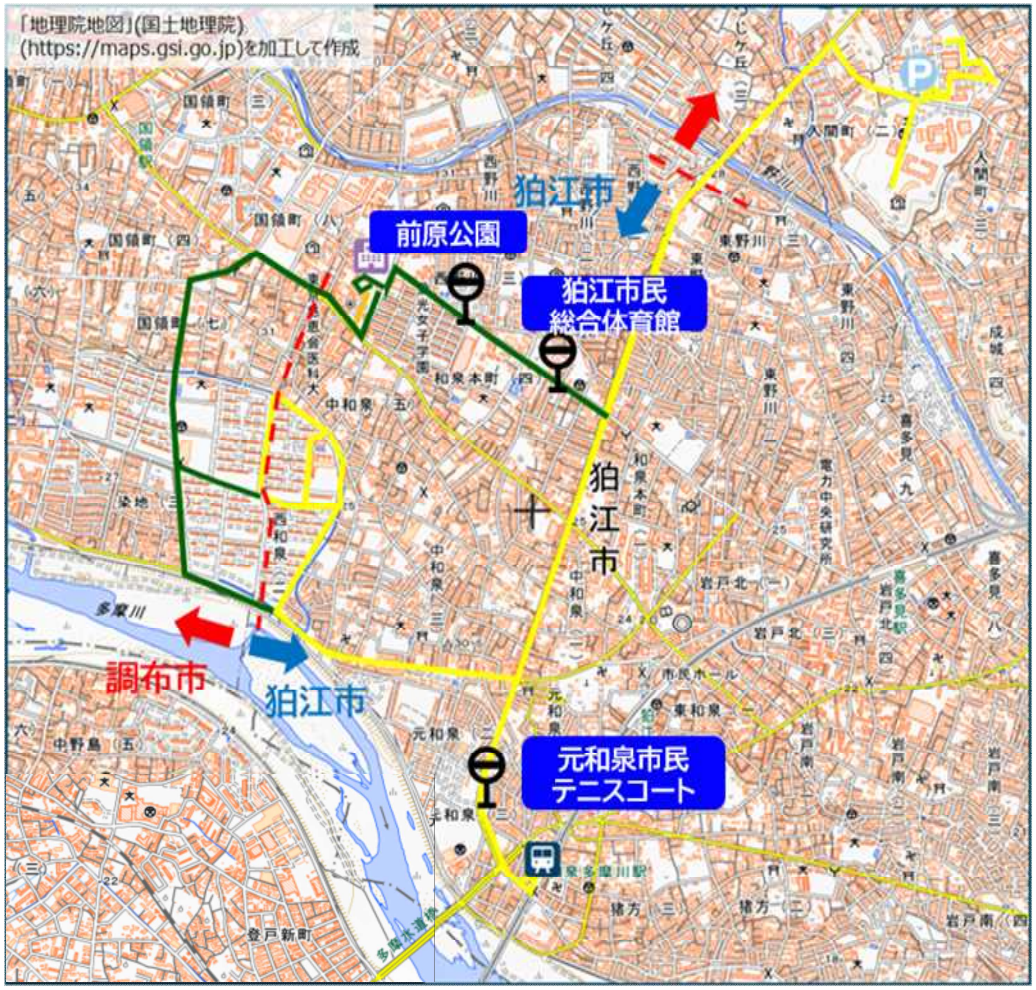
次回、交通会議にて報告予定。
（これまでの総括、計画への記載、取組案など）

自動運転バス実証運行　令和8年度の状況

総務省地域社会DX推進パッケージ事業
（自動運転レベル4検証タイプ）

・令和６年度から実施している自動運転バスの実証運行について、令和８年度は既設バス停を利用した実証を実施

・以下の３箇所について、道路交通法第44条第2項第2号の規定に基づく停車又は駐車に関する合意としたい



走行箇所	✓ 和泉多摩川駅～田中橋交差点～多摩川団地 ✓ 和泉多摩川駅～狛江郵便局東交差点～東京慈恵会医科大学西部　医療センター（慈恵医大）を周回するルート
自動運転レベル	**原則、レベル2自動運転** ※レベル4自動運転システムを前提としているが、実証にはセーフティドライバーおよびオペレータが同乗し、レベル2相当で走行
新しい取組み	✓ 既存のバス停を利用して、停車ボタンで「必要なときだけ停車する運行」の実証 【活用バス停】 前原公園、狛江市民総合体育館、元和泉市民テニスコート （位置は左記のとおり）

【凡例】
- ：新実証ルート
- ：継続走行ルート

- ：和泉多摩川駅
- ：東京慈恵会医科大学西部医療センター
- ：NTT中央研修センター
- ：利用バス停

実証内容とスケジュール

- **今後のスケジュールとしては、令和8年10月までに実証環境を構築し、同年11月より緑ルートを含めて自動運転バス走行を開始する予定です**

		令和8年				令和9年	
		9月	10月	11月	12月	1月	2月
スケジュール	走行実証	実証環境構築 →		実証走行（ユースケース検証） →			
	バス停利用		▲地域公共交通会議 ▲バス停利用申請				
			運行時間調整 →		▲バス停利用した実証開始 →		

自動運転車両

株式会社ティアフォー製 小型バス車両
「Minibus2.0」乗車定員28名（立ち乗り含む）

